

---

# ～「もう限界…」「このままでは職場が崩壊する!!」を自力で解決～ 間接業務のムダ取りによる

## 人手不足解決方法

### ～AIやDXによらない業務改革手法を、講義で学び事例で確認～

---

【受講対象者】人手不足に悩む部課長・主任クラス( 部署不問 )

業務改革推進部門および働き方改革推進部署の部課長・主任クラス

求人難や従業員離職率の悪化に悩む総務・人事・管理部門の部課長・主任クラス

会社業績悪化・利益率低下・人件費高騰に苦しむ経営者および経理部課長

#### 【受講のおすすめ】

あなたの部署では、日々際限なく増え続ける業務により、慢性の人手不足に陥ってはいませんか? この問題を放置し続けると、講師の前職のように、業務品質低下(手抜き)によるコンプラ違反等の「会社存続の危機」を招く危険性があります。これは決して他人事ではなく、御社でも起きる可能性が十分あります。

そこで本セミナーでは、従来の業務ムダ取りとは全く異なる発想による**真の業務削減方法**についてお教えします。そのポイントは、ムダを探すのではなく、部署業務の本来『あるべき姿』を追求することです。業務の実態とあるべき姿の対照により、全業務を①本来業務 ②ムダ業務(弱目的業務) ③現状未実施の本来業務の3つに分類します。あとは②を廃止し③を実施するだけで、あなたの部署は本来の機能を回復します。

真の業務削減に必要なのは、部署業務の本来あるべき姿を見る化する**業務目的体系表**および実態を「見える化」する**業務体系表**の2枚のExcel表です。当セミナーでは、現状把握からムダ業務の特定、ムダ取りの具体例、そしてリバウンド防止策に至るまで体系的に学習できます。演習を通して業務目的体系表の作成方法や業務ムダ取り方法を習得でき、ムダ取り活動につきものの抵抗勢力対策も盛り込まれた実践型プログラムとなっています。

今行動しなければ、業務増大と人手不足のダブルパンチで御社(貴部署)は回復不能な状態に陥る危険性があります。2枚のExcel表による実態と理想の対照でムダ業務を明確化し、その廃止により余剰マンパワーを創出して、人手不足を自力解決する第一歩を踏み出してください。

(注) 演習時にExcelの入ったノートPCがあると便利です(ない場合はシートで対応)。

#### 【講師】

(株)トータルマネジメントシステム研究所 代表取締役 角川 真也 ( つかわ まさや )

中堅部材メーカーにおいて社内コンサルとして間接業務の「見える化」「最小化(ムダ取り+効率化)」「標準化」手法を全社展開、生産性を300%向上させ会社倒産の危機を救う。独立後は『組織マネジメントシステム(ERP)』自社構築による間接業務の生産性向上手法普及に専従。数値データ(時間・金額)を駆使した科学的マネジメント手法による組織パフォーマンス向上を得意とする(「TMS研」でHP検索可)。『工場管理11~3月号』(日刊工業新聞社)誌上にて『労働生産性向上による人手不足解決方法』の特別記事を寄稿。セミナー開催実績: 104回/13年、受講者累計: 1,102名、受講者評価: 平均83.8点

## 【プログラム】

### 1. 間接業務削減の必要性

- 1) 間接業務の現状( 増え続ける業務→業務品質の低下→問題発生 )
- 2) なぜ業務は増えていくのか?
- 3) 増えていく業務に対処しないとどうなるのか?( 失敗事例紹介 )

### 2. 『真の業務削減』の考え方

- 1) なぜ従来の業務ムダ取り手法は失敗するのか?
- 2) 『逆転の発想』による『真の業務削減』とは?
- 3) ムダを取りたければムダを探すな!!
- 4) 『真の業務削減』の優れている点

### 3. 業務の『るべき姿』とは?

- 1) 『るべき姿』はどこにあるのか?
- 2) 本来『るべき姿』を「見える化」する業務目的体系表( 事例紹介・演習あり )

### 4. 間接業務の減らし方

- 1) 現状を「見える化」する
- 2) ムダ業務・弱目的業務の見つけ方および対処方法( 演習あり )

### 5. リバウンド防止策

- 1) 業務目的と実施事項の対照
- 2) 総量規制( 事例紹介 )

### 6. 『業務目的体系表』の活用方法

- 1) 業務効率( 労働生産性 )の向上方法
- 2) 間接員のモチベーション向上方法

### 7. 抵抗勢力対策

- 1) なぜ抵抗するのか?( 事例紹介 )
- 2) 従業員アンケート( 事例紹介 )
- 3) 業務目的体系表

### 8. 質疑応答・個別アドバイス

#### 【過去の受講者アンケートより】

- ・ 業務ムダ取り活動を手探りで行ってきたが、正直言って実際にどうすればいいか分からなかつたので、このセミナーで問題解決の糸口が見えた。
- ・ 今まで我流で間接業務のムダに関するヒアリング調査や改善提案をしてきたが、講師の方法論を聞き、かなり有効だと感じた。
- ・ 「現状=ムダ=るべき姿」→「現状=るべき姿=ムダ」という逆転の発想に感心した。
- ・ 業務ムダ取り活動につきものの「抵抗勢力」対策が非常に参考になった。
- ・ 業務目的体系表作成は費用対効果が十分得られると感じた。特に関係者との方向性の一致や、実施事項の抜け漏れのチェックに有効と考える。
- ・ 製品の特許が切れる3年以内に今までのやり方を見直さないと危ないと感じていたので、本セミナーの内容を社内展開し、ムダ業務をあぶり出したい。
- ・ 他社のベンチマークは参考にならない(身の丈に合わない)ことを知った。他社事例も参考にしたいところだが、結局は社内で「るべき姿」を議論していくしかないと思った。